

チームメディカル (TM) 最新の状況 2019/12/25

12月25日(水) 令和元年度 TM 活動報告会

25日午後2時から令和元年度 TM 活動報告会が開催され、今年度の TM 活動についての報告、生徒による課題調査報告の発表、東京女子医科大学の蔣池先生による講評と講演が行われました。報告会は、TM1年生3名によって進行されました。

TM 活動報告は、チームメディカル担当主任から、活動報告書を元に6つの主要な活動、昨年度からの変更点として①国際医療研究センターの夏の研修、②若手の研究者の講演、③現役医学生の講演、④従来の研究発表会を活動報告会に変更、⑤SSH とのタイアップ、などの報告がありました。②、③の取組は TM 生の希望を取り入れて実現したものです。取組にはプラスの面がある一方、離籍者の多い学年があるなどの課題もありました。離籍の理由は、進路の変更によるものであり、意識の変化は報告書 26 ページからのアンケート結果を参照してほしいと思います。来年度に向けては、TM ミーティングの取組に2年1クールを取り入れること、3年生が参加可能な時期に実施する内容を精選する、など TM 生に魅力のある事業とする方向性が示され活動方向が締めくくられました。

次に、一人持ち時間5分で、生徒の課題調査報告の発表が行われました。報告発表のテーマは以下の通りです。時間の関係で全ての TM 生による発表ではありませんでしたが、各自5分という短い時間の中で調査内容を簡潔に発表していました。

<課題調査報告発表>

- ①2年「全身性エリテマトーデスについて」
- ②2年「緑内障について」
- ③2年「震災時の災害医療の課題について」
- ④2年「川崎病とその合併症について」
- ⑤2年「貧血から考えるスポーツ医学の重要性」
- ⑥2年「アメリカンフットボールにおける膝関節の怪我について」
- ⑦1年「ゲノム医療について」
- ⑧2年「再生医療と人工医療素材の発達と現状について」
- ⑨1年「アルコール依存症について」
- ⑩2年「デザイナーベビーについて」



進行係3名



TM 活動報告



生徒による発表

⑪2年「臓器移植医療の現状と今後」

⑫2年「筋委縮性側索硬化症(ALS)について」

この後、蔣池先生による講評と講演に移りました。

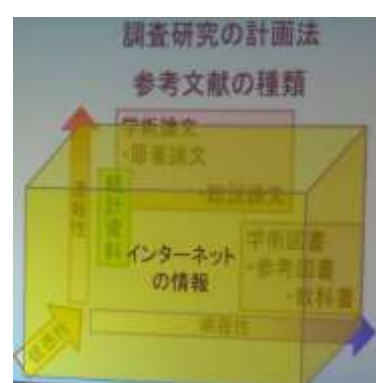
前半は、講評を兼ねて、調査研究の計画法と発表法についての講演がありました。

研究には、方法として観察・実験・調査があり、今回の生徒発表のような情報収集を行う調査研究、その中でも文献調査について、どのように進めていくのか、以下の6点の項目について具体的な説明がありました。

- (1) テーマを決める
- (2) 仮説を立てる
- (3) キーワードを選ぶ
- (4) 先行研究（参考文献）を集め、整理する
- (5) 考察する
- (6) 結論を導く



この中で、参考文献の分類として、速報性と網羅性の2つの軸があるが、さらに信ぴょう性という軸を考える必要がある。学术论文や参考図書が2つの軸で位置が定められるのに対して、インターネット上の情報は、3軸の高い～低いまで様々な情報があることに注意しなければならない。また、考察においては、仮説を支持する参考文献と仮説に反する参考文献を、双方予断なく検討する必要がある、と助言をいただきました。



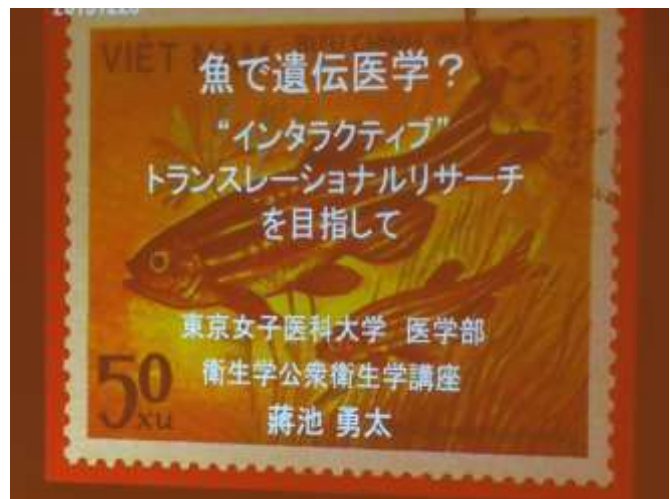
次に、研究を行い、成果を得たら積極的に発表すべきであること、以下(1)から(3)に示す発表の大切な三大要素についての話がありました。

- (1) What is Question? 研究の目的と背景
知りたいことは何か。なぜ知りたいのか。
- (2) What is your Story? 研究の方法と結果
問題解決のために、何をどのように行い、どのような結果を得たのか。
- (3) What is Conclusion? 研究の結論
研究から得た結論は何か。

後半は、前半の講義にあった研究の方法や発表方法に沿った形で、具体的に蔣池先生自身の研究についての講演がありました。

ゼブラフィッシュを使った実験により、明らかになった「ウィリアムズ症候群責任領域近傍の YWHAG 遺伝子は、てんかんと心肥大の原因となり得る」が将来臨床医学の新しい医療技術や薬に生かされれば、先生の目指している「インタラクティブトランスレーショナルリサーチ」になることが期待されていることがわかり、これからの医学研究の在り方を提示していただきました。

最後に、「基礎研究は医師にもできます、しかし臨床研究は医師にしかできません、治療行為も医師にしかできません、研究の成果を患者さんに届けるのは医師の力が絶対に必要なのです」とメッセージをいただきました。



<生徒からの感想・質問>

- 研究発表の方法は、これからの学校での活動でも沢山応用していけると思った。
- とても分かりやすい説明でした。次のレポートや発表の参考にしたいです。
- 医師にしかできないことなどを学ぶことができました。公演を聞いてくださりありがとうございました。
- 研究というのは高校生の私にはまだ早いことのように思われましたが、私が高校生の中でも行う調べ学習やまとめなどをするときにも今回の講演のお話は大変参考になる内容だと思いました。ありがとうございました。

○高校生で論文はまだ早いのではないかと感じていたけれど、研究をしてそれをまとめ発表する力をつけるには今から練習を積んでおくことが大切なのだと思います。

○今回発表し、その後先生に研究の方法を解説していただいたことで自分の反省点が見えました。来年の課題研究に行かそうと思います。

○受験勉強の時、気分転換は何をしていましたか？

○色々な人の発表が聞けて参考になることがたくさんありました。来年はより良いものを作れるようにしたいと思いました。日常的に医学に関する情報などを知っておきたいと思いました。

○研究をするにあたって研究資料を集めるのに、すぐに情報が分かるという観点と網羅性が大切なのだと分かった。また、理工学や薬学が臨床研究に役立つのだと学べた。

○どの研究発表もとても興味深かったです。 蔣池先生の講演も、とても勉強になりました。今年度の研究活動で学んだことを、来年度にも生かしていきたいです。

○研究、発表をする際のポイントをプロの視点から教えて頂けたのでよかった。

○これまで研究について『調べること』だというただ漠然としたイメージしかなかったけれど、具体的に何をすることなのかがわかり、とても参考になった。

○今日はありがとうございました。文献調査の仕方が、正直言ってよくわかっていなかったもので、今回のご講演を受けて、これからの調べ学習がより良いものとなりそうで、嬉しいです。また、基礎研究と臨床研究の関わりなどから、医師の魅力を再発見させていただきました。研究内容も自分の知らないことばかりで興味深く、基礎研究の仕方もよく学びました。

○私も SSH で魚の研究をしたことがあったので、とても分かりやすかったです。

○調査研究のやり方について、詳しく知ることができ、わかりやすかったです。ありがとうございました。

○ご講演ありがとうございました。私は初めて研究発表というものを行い反省すべき点が多々ありましたが、実際に先生の発表を聞き、研究発表をどのように行えばいいのかを学ぶことができました。私は来年三年生で TM の研究発表は行うことができませんが、今後まだそのような機会があると思いますので、今日の講演を参考にしていきたいと思えます。また、研究結果を患者さんに届けるのは医師しかできないという言葉はとても感銘を受けました。これは医師の使命だと感じました。私も医師になるときはこのことを忘れずにいたいと思います。今日は本当にありがとうございました。